本多静六と公園改良委員会



公園改良設計調査第一回報告　明治 41 年（1898）請求番号：602.A4.10

日比谷公園の開園を経て、東京市は明治41年(1908)に「公園改良委員会」を設置し、日比谷公園の設計者であり「日本の公園の父」とも呼ばれた本多静六など、学識経験者が主体となりました。

この委員会が定めた公園改良の方針は、特定の地点から景色を鑑賞する日本庭園の様式だけでなく、広々とした空間を主体とするヨーロッパの公園様式も取り入れようとするものでした。

第１回報告に収録された芝ならびに愛宕山の改良案にも、土地の形状や建造物の特徴を生かした公園整備の構想が示されています。